

2016年5月25日 千葉大学アカデミック・リンク・センター
千葉大学アカデミック・リンク・セミナー/ALPS セミナー
「アカデミック・アドバイジング実践者について考える-アメリカの事例を通じて」
参加者アンケート集計結果

当日参加者数： 42名（アカデミック・リンク・センター・附属図書館関係者を除く）アンケート提出数： 26件

千葉大学アカデミック・リンク・センターは、教育関係共同利用拠点として、「教育・学修支援専門職」の養成のために必要な研修プログラムの構築・運営の準備に取り組んでいます。今後の活動のために、本日のシンポジウムに参加されたご意見・ご感想をお寄せください。なお、記載いただいたご意見・ご感想は、個人名・組織名が特定できないかたちで公開する場合があります。

1. 本日のセミナーで、よくわかったこと、新しい発見などがあればお書きください。

- ・日常的に行っている学修支援に理論的裏付けを求められる場合があるという点について、再発見があった。
- ・アカデミック・アドバイジングについて、アメリカには NACADA という専門職団体があり、研修などを行っていること。一方日本では、担当者研修自体があまり行われていないこと。
- ・アドバイジングというカタカナ語を初めて見かけましたがよくわかった気がします。
- ・アメリカでは4年間を通じて専門の担当者がアドバイスできる体制が整っている。
- ・アメリカと日本の支援体制の違い。
- ・アメリカの方が進んでいるのかな、と感じました。
- ・学習（アカデミック）アドバイジングの領域が明確になった。
- ・アメリカと日本の傾向がわかった。
- ・日本の対応の遅れを感じました。
- ・ただ、海外の事例をみるのではなく、日本の実状に合わせ、結果にこたえるためよく考えていくべき話題でもあるかと思います。
- ・アメリカの大学の事例を聞いて勉強になりました。
- ・アカデミック・アドバイジングを成功させるには、カリキュラムの熟知が必須だと再認識しました。また、日本の大学で成功させるには、学生の保護者のケアも必要なのではと思いました。（保護者対応のノウハウが必要）
- ・アメリカの事例が参考になった。
- ・自校の理念：ポリシーの研修をおこなっていることが新たな発見でした。
- ・アメリカでのアカデミック・アドバイジング実践の内容。
- ・支援方法や形態、研修の内容について。
- ・アメリカにおける事例はよくわかりました。
- ・学生対応の調査はされていないこと。
- ・全体として新鮮でした。
- ・学習（修）支援という言葉は知っていたが、体系的なアカデミック・アドバイジングというものがあることがわかった。
- ・アメリカでの実際の取り組みやアドバイザーに求められる能力について、よくわかりました。
- ・米国の実態がよく理解できました。
- ・学生への一体的な支援の必要性、効果、学生の評価について理解できた。
- ・アメリカの動きが大変よく理解できた。
- ・大学での学習支援の日米の違い、日本での今の状況など。
- ・アカデミック・リンク・センターの目的や活動そのもの、アカデミック・アドバイジングの概念、当日参加者の雰囲気からの日本の現状。

2. 本日のセミナーで、よくわからなかったこと、疑問に残ったことがあればお書きください。

- ・「(4) 求められる能力」と最後の方のスライドなどハンドアウトにかけているスライド分がほしかったです。
- ・スライドにのみあった2枚の資料は興味深そうだったような。
- ・私は職員なのですが、アカデミック・アドバイジングや研修を行っている部署（一つではないと思いますが）について知りたいと思いました。
- ・学生による学習支援も知りたいと思いました。
- ・アメリカの大学のアカデミック・アドバイザーがどの程度大学運営に関わっているのか疑問に思いました。（大学の本部の動向を知らないわけにはいかないと思ったので。）
- ・どの程度の責任を負うことになるのか気になりました。（アドバイジングが失敗した（留年など）の場合、アドバイザーの非になるのか。）
- ・アメリカでの専任アドバイザーの身分、職位（有期、無期）
- ・日本における専任アドバイザー（専門職）の実例 アドバイジングとカウンセリングの違いについて。
- ・アドバイスの具体的な例を伺ってみたかった。
- ・先生が実施された、アンケートの結果分析方法（質問にもありましたが、設置による違いがわかるとよかったです。）
- ・日本の大学への適用状態。
- ・今回米国事例としてご紹介されたアドバイザーは、アメリカの大学では一般的なのか、先駆事例としてご紹介いただいたのかを質問しそびれました。
- ・今回は履修や卒業に対する支援が多かったもので、図書館の役割については出てこなかった。
- ・教員と事務職員の所掌の違いは、学徒厚生補導審議会答申に始まったと思います。
- ・アカデミック・アドバイジングと学生支援の関係について。

3. 大学における教育・学修支援の在り方についてのお考え、ご所属先での取組事例やご存知の特徴ある事例などがあればお書きください。

- ・SULA?
- ・愛大コンピテンシーとの関連もおもしろそうなのにも思います。
- ・アカデミック・アドバイジング領域は、学生課、教務課、キャリアセンタ職員が窓口等で対応している。学生の学習を促す環境整備についてはLearning Advisorが自立学習者の育成を目的とした取り組みを行っている。アドバイジング・センターはない。
- ・日本でのアカデミック・アドバイザーの専門性について、現存の「学務系職員」と何がどう違うのか、業務内容の区別、線引きをはっきりさせておく必要があると思います。現状、本学での学務系職員の業務内容は非常に幅広く、煩雑であるため、従来の学務系職員が“片手間”にできる仕事ではないと思います。適正、専門性を深めるためにもが業務の区別がしっかりされることを望んでいます。
- ・ラーニング・サポートセンターの立ち上げを始めるところなので、とても参考になりました。
- ・<在り方についてのお考え>→学生、教員のスキル等に差があるので、一律ではなく個に即した支援が必要と感じる。学生の場合、将来に活用できるように能力を伸ばすような支援を心掛けている。教えてしまうのは簡単だが、自分でできるようにするための言葉かけ、きっかけづくりを模索中です。
- ・学生支援と学修支援を一か所に集めたいのですが、建物と職員の縦割り意識から暗中模索している。
- ・UEA(University Educational Administrator)という第3の職について学内で検討しています。

4. 本日のセミナーの内容について等、その他、自由にご意見をお書きください。

- ・ハンドアウトですが、ファイルに長辺で綴じるので、印刷の方向を長辺で綴じても読み易いようにしてほしいです。
- ・水4というのは、宜しい時間帯と存じます。
- ・毎回、先進的かつ興味の深い内容のセミナー開催ありがとうございます。
- ・私が所属しているセンターでは、ピア・サポートを運営しています。時には教員にむけられるような質問をうけることもあります。職員として、どこまでやるのが適切なのかを考える参考になりました。貴重なセミナーありがとうございました。
- ・学内でのアドバイジング・センターの必要性を見出しました。ありがとうございました。
- ・もう少しだけ詳しく事例紹介してほしいかった。
- ・職員の研修についてはあまり意識しておりませんでした。今後の大学教育の在り方を考えるうえで、考えていかなければならないことだと認識することができました。
- ・講演がとても興味深かったので、質疑応答の時間がもう少し長ければよかったと思います。お伺いしたことがありましたが、時間が足りませんでした。
- ・勉強になりました。ありがとうございました。
- ・大変貴重な機会をありがとうございました。自分なりの実践と実現方法を検討していきたいと思います。
- ・名称としてなくとも、アドバイザー的な仕事やそれを行っている人は日本でもいると思うので、そこまでふみこんで比較した研究やアンケートやセミナーがあればなおよいと思う。
- ・本日はこのような場を設けていただきありがとうございました。
- ・「日米の違いを認識して取り組むべき」同感です。
- ・勉強になりました。ありがとうございました。
- ・60分くらいの講演時間はちょうどよかったです。
- ・大変勉強になりました。また参加したいと思います。

5. 次の(1)、(2)について、該当するものに○をつけてください。

- (1) a. 千葉大学外の方 16名 b. 千葉大学学内の方 10名
(2) a. 学生 0名 b. 教員 5名 c. 大学職員(図書館職員を除く) 9名 d. 図書館職員 10名
e. 出版関係 0名 ※回答なし 2名

6. セミナーを何で知りましたか？

- a. Web(アカデミック・リンク・センター) 7名 b. Web(図書館) 0名 c. Web(千葉大学) 0名
d. 図書館内電子掲示 0名 e. ポスター 1名 f. センターからのメール 9名
g. Facebook・Twitter 1名 h. その他 7名(大学図書館協会からのメーリングリスト、同僚からの紹介など) (複数回答あり) ※回答なし 2名

7. 千葉大学 アカデミック・リンク・センターでは、セミナーの開催や関連する情報を提供しています。これらの情報を希望される方は、お名前・ご所属・メールアドレスをご記入ください。(既に登録されている方は引き続きお届けしますので、空欄で結構です)

お名前：() ご所属：()
電子メールアドレス： 申込時に利用したもの それ以外 ()

ご協力ありがとうございました。

※11名が新規に継続的な情報提供を希望